資料3-1

3-1.「相互運用標準モデルVer.5.00」の改定・追記項目（技術仕様）について

技術仕様のアップデート方針について①

- 標準モデルVer.4.00で対象領域はほぼカバーされており、**大きな変更は不要**
  - ✓ **学習eポータル**、**校務支援システム**、(デジタル教科書・教材やさまざまなツールなどの) **学習ツール**、(xAPIステートメントで表記されたスタディ・ログを蓄積するデータベースである) **LRS**の4つのコンポーネント
  - ✓ コンポーネントをつなげる、**LTI** (Learning Tools Interoperability)、**OneRoster**、**xAPI**などの国際技術標準規格をベースに日本の初等中等教育の状況に合わせて規定
- 8月のICT CONNECT 21の学習eポータルSWGミーティングで、**追加や修正のリクエストをメンバーに対して募集**
  - ✓ メンバーからは特にリクエストは上がらなかった

技術仕様のアップデート方針について②

具体的な変更点

- LTI、xAPIそれぞれに対して、細部の規定を一部のみ修正
- MEXCBTの仕様アップデートに合わせて、学習eポータル側で修正が必要な部分のみ修正予定
- 学習eポータルから学習ツールを呼び出すときに渡すユーザーの属性情報の追加を検討中
  - ✓ 現在はユーザーを識別するUUID、そのユーザーが所属する学校を示す学校コード、そのユーザーの役割りを示すRoleのみを渡している
  - ✓ 多くの学習ツールが学習eポータルとのLTI連携に際して、学年、クラス、表示名などの属性情報を学習eポータルに対して要求しており、これらの情報の提供の方法やリスクなどを検討中

技術仕様のアップデート方針について③

検討されているが今バージョンでは追加や修正が見送られる見込みの項目

- OneRoster RESTに関する仕様
  - ✓ 現在は校務支援システムから学習eポータルに名簿情報を渡すためにOneRoster CSVを規定してファイルを通じて渡しているが、学校のネットワーク統合に伴い、APIを利用して自動的に連携できることが望ましい
  - ✓ 現在デジタル庁事業の中で、1EdTech Consortiumが規定しているOneRoster REST仕様を活用して連携を行う実証が進行中
  - ✓ この結果が良好であれば、標準モデルの次のバージョンで採用することを想定
- LRSに蓄積されているデータのアクセス方法に関する仕様
  - ✓ 現在は学校設置者との契約の元にLRS提供事業者が管理を代行
  - ✓ データの取り出し方やデータの生成元の特定方法などの技術仕様を調査中